

令和7年10月16日

千葉県健康福祉部
部長 岡田 慎太郎 様

千葉県ことばを育てる会
会長 加藤 志恵

難聴・言語障害児者に関する 要望書

平素より難聴・言語障害児者への支援にご尽力たまわり誠にありがたく感謝申し上げます。また、千葉県ことばを育てる会の事業に毎年ご支援をいただき重ねて感謝申し上げます。

本会は、発音、発話、読み書き、コミュニケーション、ソーシャルスキルなどにつまずきのある子どもと家族のために、保護者・教育者・支援者がお互いに手を結んで、問題を解決し、広く社会の人々の正しい理解と支援・啓発を行うことを目的に活動しています。

今から70年ほど前、本会の前身である「言語障害児をもつ親の会」は誕生しました。結成当初から学校の先生たちと手をたずさえ、教室を県内・全国へひろげるために奮闘してきました。

そして今年度、本会のスローガンである「子どもを真ん中に 親と先生が 3人4脚で」に向けて更なる発展を目指し、幼児から大人までの本人と家族、関係者を会員の対象として取り組みの範囲を拡大していくことになりました。

残念ながら、保護者の子どもを案ずる悩みや孤独感は尽きることはなく、70年前と変わりません。社会や家族の無理解や、本人の不十分な自己理解などが社会的障壁となっています。本会は難聴・言語障害教育を含む特別支援教育に、子どもへの指導の充実だけでなく、学校・教員と子どもの間の橋渡し、保護者がわが子を理解する手助け、そして必要とする県の情報が入手しやすい環境などを求めています。

子どもの多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、子どもの最善の利益をはかることがはかれることを願っています。将来、子どもが自信をもって生きていける自律した人生が送れるように、子どもや保護者のライフステージに応じ、切れ目なく対応していただき、生涯にわたって十分に支援が受けられるようお願いいたします。

以上の事を踏まえ、千葉県ことばを育てる会は、以下のことを要望いたします。

※ 主体的に判断し責任を持って行動するという意味での「自律」としました。

※ 制度名に従い「障害」を使用していますが、本会は「障がい」への変更を希望します。

1. 早期発見・早期療育のため、現在の3歳児健診に加えて4歳児健診、5歳児健診を実施し、診査項目に言語検査を加えてください。
2. 幼児期の子どもをもつ保護者が難聴・言語障害の相談・指導ができる機関を地域格差がないように常設するよう各市町村へご指導ください。
3. 難聴・言語障害児は他の障害の幼児と比べ、健診で見過ごされやすくなっています。各市町村の担当者に言語障害についての認識を高めるよう啓発してください。
4. サポートファイルの啓発と生涯にわたる継続的活用等のため、県教委や各市町村教委など関係機関との連携強化を各市町村へご指導ください
5. 保護者が気軽に相談や問い合わせができるように、関係諸機関や外部機関・保護者の会などとの連携を進め、情報公開を積極的に進めてください。
6. 最新の情報を、保護者にも開示をお願いします。
 - 1に関連して
 - ① 幼児の言語検査実施状況
 - 2に関連して
 - ① 常設の公立もしくは公設の幼児難聴・言語指導機関
 - 4に関連して

サポートファイルの各市町村での利用状況